

グローバル COE プログラム

境界研究の拠点形成：スラブ・ユーラシアと世界

北海道大学スラブ研究センター

特別セミナーレジュメ

北朝鮮をとりまく境界線—中朝・ロ朝国境と軍事分界線

三村光弘 (ERINA)

1. 北朝鮮をとりまく境界線とその特徴

- 中朝国境：延長約 1400 キロ
 - ① 3本の鉄道と多数の国境ゲートで連結
 - ② 北朝鮮の対外貿易の約 50%が通過する大動脈
 - ③ 北朝鮮の非公式経済を支える物資が通過する裏の大動脈
 - ④ 様々な情報媒体やうわさが行き来する情報の大動脈
- ロ朝国境：延長約 17 キロ
 - ① 沿海地方ハサンと羅先市豆満江区を結ぶ親善橋で連結
 - ② ロシアで働く（建設、伐木）朝鮮人労働者の帰国ルート
- 軍事境界線：延長約 248 キロ
 - ① 1945年の日本敗戦時に伴う連合国の占領時の境界線（38度線）→冷戦の激化にともない東西陣営の境界線に→1950～53年の朝鮮戦争の結果、休戦協定によって固定
 - ② 南北の軍事的対立を象徴する境界線。南北あわせて 120 万以上の兵力がこの線の両方で対峙。軍事境界線北方の長距離砲は、今日もソウルを照準に。
 - ③ 南北双方の国内での熾烈な敵味方の識別と対立（国内での 38 度線問題）の原因
 - ④ 北朝鮮の対外貿易の約 30%が通過する大動脈（開城工業地区、委託加工等々）

2. 北朝鮮をとりまく境界線の意味（その 1：総合的に）

- 冷戦終了の恩恵を受けている地域と受けていない地域を分ける線
- 自由貿易とそれに伴う経済成長を追求する地域とそうでない地域を分ける線（中国、韓国は WTO 加盟国、ロシアは加盟申請中、北朝鮮は一時、オブザーバー加盟の意思を示したことがあるが、現在は未加盟）
- 米国との国交がある地域とない地域を分ける線

3. 北朝鮮をとりまく境界線の意味（その2：周辺国にとっての意味）

- 地域の経済交流を阻害する物流面での障壁
 - ① 韓国は半島に位置するにもかかわらず、事実上島国となっている←日本植民地期には釜山～ソウル～平壤～新義州～満州間の鉄道は複線の大動脈であった
 - ② 中国・吉林省は日本海から15キロの地点で領土が終わり、海に出ることができない。北朝鮮やロシアの港を利用して日本海に出たいが、この地域の軍事的緊張のためにインフラはあるのに利用しづらい
 - ③ 日本や北太平洋と中国北部を結ぶ航空路が設定されてはいるが、日本や韓国の航空会社は利用しづらい（一部の中国航空機は利用）
- 地域の経済交流を阻害する心理的障壁
 - ① 中朝三国国境地帯を含んだ北東アジアでの地域協力（図們江地域開発：Greater Tumen Initiative）が提唱されているが、日本は北朝鮮との国交がないことを理由に正式加盟していない
- 地域のカントリー・リスクを増大させる要素
 - ① 中国東北地方を中心とする中国への投資
 - ② 韓国への投資

4. 北朝鮮をとりまく境界線の意味（その3：北朝鮮にとっての意味）

- 北朝鮮の政権から見た境界線の意味
- 北朝鮮の国民から見た境界線の意味

以上